

今月の安全運転管理

あれもこれも ゆとりのない計画が 事故を招く

①過労・居眠り運転を防止しよう

- ゆとりある運行計画を作成しよう
- 従業員の様子をしっかり観察しよう

②夏の交通安全県民運動【7月11日(金)～20日(日)】

※県内一斉大監視 7月16日(水)午前7時～午前9時

- 運転適性検査を実施しよう



ゆとりある運行計画で 過労運転を予防しよう

夏場は暑さから疲労が慢性化しやすく注意が必要です。人は過労状態に陥ると、動作が緩慢になったり、思考力や注意力が低下したりします。

このような状態で運転することは、漫然運転や居眠り運転につながり、重大事故の危険が高まります。

そこで、疲労の蓄積による事故を防止するため、運行計画を見直し、安全第一のゆとりある運行計画を作成しましょう。

運行計画作成の際は、運転業務が特定の従業員に集中していないかチェックするとともに、適度な休憩がとれるよう時間的なゆとりも持たせてください。

また、定期的にヒアリングなどを行い、常にブラッシュアップしておきましょう。

朝礼や点呼時は従業員の様子を しっかり観察しよう

毎日の朝礼や点呼をおざなりに行っていると、従業員の体調不良を見逃します。

夏バテ等の体調不良を見逃さないために、朝礼や点呼時は、従業員の顔色や様子をしっかりと観察して健康状態の把握に努めましょう。表情や受け答えから、

いつもと違う異変を捉えてください。体調不良が見られる従業員は運転業務に就かせないことです。

また、普段から生活習慣を見直し、疲労をためない生活を心掛けるといったアドバイスを行うなど、「コミュニケーションを緊密にとり、従業員が体調不良を申し出やすい雰囲気づくりをすすめましょう。

運転適性検査を 実施しよう

「夏の交通安全県民運動」が、七月十一日(金)～二十日(日)にかけて実施されます。期間中には「県内一斉大監視」が行われるほか、「エコ&セーフティ無事故・無違反運動」も開催されます。

事業所でも運動に関連するイベントに積極的に参加するとともに、安全意識向上につながる独自の活動を実施して運動を盛り上げましょう。

たとえば、運転適性検査を実施して従業員に自分自身の運転傾向を把握してもらうのはいかがでしょうか。

運転適性検査は心理検査の一種で、運転に影響を与えやすい個人の特性を科学的に測定・分類するものです。

従業員が自身の性格や癖といった運転の傾向を把握するのに役立つだけでなく、傾向や癖を意識した運転をすることで事故防止にもつながります。